

彩の歳時記

平成二十九年 十二月

旅館の寒燈独り眠らず

客心何事を転た凄然 故郷今夜千里に思ふ

霜鬢明朝又一年

高道 [702a- | 765]

除夜作 高道
旅館寒燈獨不眠
客心何事轉凄然
故郷今夜思千里
霜鬢明朝又一年

「旅館の寒々とした灯の下で独り眠れず、旅心は寂しさをより強く感じる。故郷を今夜大晦日、千里も離れた旅先から憶んでいる。白髪頭の私は、明朝(元旦)また一つ年をとってしまった。」

現在のように、大晦日に離れていても容易に連絡を取る事が出来るほどに通信網の発達したのは、ここ五十年くらいのこと。長い間、年の瀬には、人々は離れて暮らす家族や身近な人々の境遇に想いを馳せていました。その想いが、詩や歌、文学作品となり、後世に残り、時空を超えて私達の心に響き、古人との繋りを感じます。通信網が発達しても世界には『除夜作』と同じ思いを抱えた多くの難民達がいる事を覚え、除夜の鐘に耳を傾け、無事に新年を迎える事に感謝したいものです。



十二月の暦

師走 昔は、年末に僧侶を自宅に招き、経を唱えてもらう風習があった事から僧師が走り回るほど忙しくなることに由来。

七日 大雪【二十四節気】『暦便覧』では「雪いよいよ降り重なる折からなれば也」



八日 1941年(昭和十六年)のこの日、日本海軍はアメリカの太平洋艦隊の根拠地ハワイの真珠湾を急襲、太平洋戦争の火ぶたが切っておとされた。

九日 漱石忌 明治の文豪・夏目漱石【1867-1916】本名「金之助」の忌日。漱石は



中国の詩「枕石漱水」に「流れに漱(くちす)ぎ石に枕す」に因る。漱石枕流には負け惜しみ、頑固者という意味があり、自分のことをそう思っていた漱石は、これをペンネームに「俗世間から離れて、川の流れて口をすすいで石を枕として眠るような引退生活を送りたい」近年、生誕百五十年・没後百年を記念して、漱石をめぐる記念行事が目を見詰める。新発見の書簡、「新宿区立漱石山房記念館」の開館、作品にちなんだ文学散歩などが脚光を浴びている。処女作「吾輩は猫である」は、漱石が後世の我々に残した珠玉の言葉に満ち、古さを感じさせない。

十日 ノーベル賞授賞式 ダイナマイトの発明者・スウェーデン人のノーベル【1833-1896】の忌日にストックホルムで行われる。文学賞に長崎出身の日系イギリス作家・カズオ・イシグロ氏。

十四日 赤穂義士祭、吉良祭 旧暦では元禄十五年、西暦では、一七〇二年一月三十日です。



雪が多い頃。人形浄瑠璃・歌舞伎の「忠臣蔵」はこれを基にした創作で現在でも人気高い。

二十二日 冬至【二十四節気】一陽来復 一年で最も日が短い。太陽が生まれ変わる日と捉えられ古くから世界各地で祝祭が行われていた。旧暦で曆上での起点。

二十三日 天皇誕生日 明仁今上天皇は、昭和八【1933】年の生まれで八十四歳になられる。自ら、生前退位を望まれ、平成は、三十一年四月三十日に幕を閉じる。

二十四日 クリスマス・イブ・振替休日 キリスト降誕の前夜祭。



二十五日 クリスマス 宗教とは関係なく年中行事のように。

二十八日 御用納め 官公庁などの呼称。民間では仕事納め。

三十一日 大晦日 除夜の(除)は古い物を捨てて新しい物に移るという意味も。「いざや寝ん元旦は又明日のこと」「行年や芥流る、さくら川」蕪村

十二月の歌 冬の稲妻

詞 谷村新司 曲 堀内孝雄

四十年前の1977年(昭和52年)発売のフォークグループ『アリス』の歌唱でヒット。この年、エルビス・プレスリー(42歳)死去。王貞治選手、通算156号ホームラン(世界最高記録)。日本赤軍、日航機をハイジャックなどの事件。

あなたは稲妻のように
私の心を引き裂いた
蒼ざめた心ふるわせて
立ちつくす一人立つくす
You're - Rollin' Thunder 突然すぎた
You're - Rollin' Thunder 別れの言葉
忘れない あなたが
残っていた傷跡だけは
後略

